

THE ROOF



2 今西中通 《子供を抱く女》 1943(昭和18)年頃 油彩・キャンバス
郡山市立美術館蔵

1・2 「戦争と子どもたち」展出品



1 松本竣介 《りんご》 1944(昭和19)年 油彩・板
個人蔵(板橋区立美術館寄託)

C o n t e n t s

- 企画展「戦後 80 年 戦争と子どもたち」
- 企画展「北斎・広重 大浮世絵展」
- 寄稿「「アート・カフェ “マイセン磁器とコーヒー”」を終えて」
- 報告「郡山市名誉市民 西田敏行展 愛してるぞ〜い！」
- Report
- Information

戦後80年

戦争と子どもたち



図1 青柳喜兵衛《天翔ける神々》1937（昭和12）年
油彩・キャンバス 北九州市立美術館蔵

今から約80年前、美術家たちは戦中・戦後を生きる子どもたちをどのように表現したのでしょうか。また、当時の子どもたちはどのような美術に触れていたのでしょうか。本展では、日中戦争開戦の1937（昭和12）年から、終戦後GHQによる実質的な占領下に

あつた1949（昭和24）年までに制作された「子ども」をめぐる美術に焦点を当て、ご紹介します。

1920年代から30年代にかけて、大正期の自由主義的な思想の流れを受け、純粋で無垢な子どもたちのイメージが

広がります。画家たちもまた、あどけない表情で無邪気に遊ぶ子どもらしい姿を描きました。青柳喜兵衛の《天翔ける神々》（図1）には、虎張子にまたがり、右手に八朔の節供を祝う玩具を持つ子どもが描かれます。モデルは1935（昭和10）年に幼くして亡くなった画家の次男で、子どもの成長を願う玩具に愛児への想いを託しています。

子どもらしさをあらわすモチーフとして描かれていた玩具も、次第に時局を反映したものへと変化していきました。会津若松市出身の渡部菊二による《戦国の少年》（図2）では、少年の足元に玩具の戦車が描かれています。玩具のみならず、少年が身につけているものは勲章やラッパ、日の丸の旗に小銃、刀といった戦争に関わるモチーフであり、戦時下であるということにハッとさせられます。



図2 渡部菊二《戦国の少年》1943（昭和18）年
水彩・紙 会津若松市教育委員会蔵

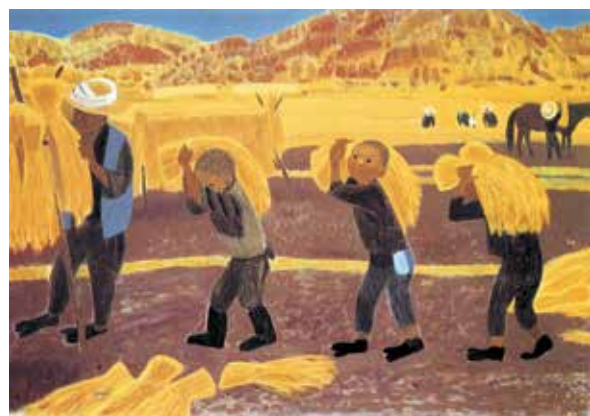


図4 中尾彰《勤勞奉仕》1944（昭和19）年
油彩・キャンバス 茅野市立北山小学校蔵



図3 浜松小源太《遣児すこやか》1941（昭和16）年
油彩・キャンバス 大館郷土博物館蔵

1941（昭和16）年12月の対米英開戦以降、日本は本格的な総力戦体制に入り、子どもたちの生活からも自由が奪われ、社会全体が戦争一色に染まっ



図5 吉井忠《少女像》1942(昭和17)年
油彩・キャンパス 個人蔵



図6 橋原健三《街頭にて》1946(昭和21)年
油彩・キャンパス 個人蔵

ていきました。出征の見送りや戦死の知らせを受ける場面も描かれるようになります。小学校の教師をしていた浜松小源太は、教え子が遺児となり、靖国神社へ参拝することを知り、《遺児すこやか》(図3)を制作しました。険しい山並みの手前に刀を携え、日の丸の旗を手にする幼子を大きく描いたシュルレアリスム風の作品です。自身の子をモデルに描いていますが、浜松は1945(昭和20)年、戦地で行方不明、戦死の扱いとされたため、自身の子も遺児となっていました。

疎開先で農作業に勤しむ子どもたちの様子です。童画も手がけた中尾らしく、穏やかで、どこか愛らしささえ感じさせますが、ここにいるのは、戦時の理念に従い、勤労奉仕に励む子どもたちなのです。

戦時下の重苦しい空気の中、画家たちにとつて子どもたちは小さな希望の光でもありました。福島市出身の吉井忠は、1942(昭和17)年に自身の長女を描いています(図5)。制作時、2歳8ヶ月であった長女の少し成長した姿を想像して描いたようです。自由に描き、作品を発表することが困難であった時代、子どもたちは画家の制作の喜びに改めて気づかせてくれる、かけがえのない存在でした。

1945(昭和20)年8月15日、15年にも及んだ戦争は終わりを迎えます。しかし、焼け野原になった終戦直後の街には、家族や住まいを失った戦災孤児の姿がありました。橋原健三は《街頭にて》(図6)で、戦争によって傷つけられた子どもたちに目を背けることなく真正面から描いています。

戦後、「なにも知らない、ただ生命力をもつ子供はわたしたちの力になった」と語った麻生三郎は、戦中から戦後にかけて多くの子ども像を描きました。《子供》(図7)は、戦争末期に生まれた長女が4歳になった姿を描いた作品です。頬や唇は赤みを帯び、愛らしい表情でこちらを向いています。占領下にあったとはいえ、民主主義教育が始ま

り、子どもたちが“子どもらしさ”を取り戻す時代が幕を開け、画家たちもまた、「戦後」という新しい時代への希望を子どもたちに託しました。

(塚本敬介)



図7 麻生三郎《子供》1948(昭和23)年
油彩・キャンパス 弥栄画廊蔵

企画展

「戦後80年 戦争と子どもたち」

2026年1月31日(土)～3月22日(日)

※会期中、一部展示替えをおこないます。

開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日：毎週月曜日(2月23日は開館、翌日休館)

入場料：一般／800(640)円

高校・大学生、65歳以上／500(400)円

※()内は20名以上の団体料金

※中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催：郡山市立美術館

北斎・広重

大浮世絵展



図1 葛飾北斎 富嶽三十六景 神奈川沖浪裏 大判錦絵 1831(天保2)年頃

葛飾北斎(1760—1849)と歌川広重(1797—1858)、一度はその名前を耳にしたことがあるでしょう。両者ともに国内外において絶大な人気を誇る浮世絵師です。この春、浮世絵界の二大巨匠、北斎と広重の代表作が郡山にやって来ます。

葛飾北斎は、江戸の本所割下水に生まれました。幼少期より絵を好み、19歳で勝川春章に入門したとされ、その翌年には「勝川春朗」の名で浮世絵界デビューを果たします。その後は、巧みな線によ



図2 歌川広重 東海道五拾三次之内 日本橋 朝之景 大判錦絵 1833(天保4)年頃

る大胆な構図と独自の色使いで多くの作品を生み出し、晩年は「画狂老人」の号を用い、約70年の長きにわたり筆を執り続けました。なかでも、場所や時間、季節によってさまざまな姿を見せる富士を描いた揃物「富嶽三十六景」は、北斎の全画業を代表する作品です。《神奈川沖浪裏》(図1)は、2024(令和6)年7月に発行された新千円札裏面の図柄にも採用され、話題となりました。

一方の歌川広重は、江戸八代洲河岸の



図3 歌川広重 名所江戸百景 亀戸梅屋舗 大判錦絵 1857(安政4)年



図4 葛飾北斎 北斎自画像 紙本着色

定火消同心の安藤家に生まれます。北斎同様、幼い頃から絵を好んで、1811(文政元)年頃に歌川豊広の弟子となりました。その後、師匠の豊広と本名の重右衛門からそれぞれ一字をとった「広重」の号で作品を発表するようになります。はじめは役者絵や美人画をてがけますが、天保期には抒情的な風景画で人気を博します。東海道筋の風景や旅の風俗を描いた全55図からなる揃物「東海道五拾三次之内」(図2)は、広重の代表作です。また、広重最晩年の「名所江戸百景」には、江戸の名所が縦長の画面に縦横無尽な視点から描かれ、《大はしあたけの夕立》と《亀戸梅屋舗》(図3)は、オランダの画家フィンセント・ファン・ゴッホが油絵で模写したことで知られています。

本展では、日本屈指の浮世絵蒐集家・中右瑛氏のコレクションから、版画のみならず肉筆画(図4)も含めた北斎

と広重の名品約200点を選びずつてご紹介します。北斎と広重、夢の競演をお楽しみください。

(塚本敬介)

企画展

北斎・広重 大浮世絵展 ～二大巨匠！夢の競演～
2026年4月18日(土)～6月21日(日)

休館日：毎週月曜日(5月4日は開館)

入場料：一般／1,500(1,300)円

高校・大学生／1,000(800)円

※()内は前売り、20名以上の団体料金

※中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催：北斎・広重 大浮世絵展実行委員会
郡山市立美術館・福島中央テレビ・福島民友新聞社

監修：中右瑛(国際浮世絵学会常任理事)

企画協力：ステップ・イースト

「アート・カフェ ”マイセン磁器とコーヒー” を終えて

勝川 達哉 (アンティークアーカイヴオーナー)



アート・カフェ 「マイセン磁器とコーヒー」

講師：勝川達哉さん

(アンティークアーカイヴオーナー)

日時：12月13日(土)、14日(日)

場所：美術館カフェ「juu 130 CAFE」



カフェの大きなウィンドウ越しに、夕日が冬木立に当たって赤く輝いている。もう少しすると、あたりは黄昏のブルーに変わるだろう。この夕景を背にして「アート・カフェ」のイベントを午後四時に始めるといふ美術館の試みは正解だったなと思った。カフェに続く廊下には、すでに開場を待っているお客様の姿が見える。

カフェのドアが開き、定刻に「アート・カフェ」マイセン磁器とコーヒー」が始まった。お客様には、お好きなカップ&ソーサーを選んで席に着いて頂い

た。講義を聞くような緊張感は避けたかったので、クリスマス柄のペーパーナプキンをテーブルに用意しておいた。カフェという場所もあって、多くのお客様が微笑んでいるように見えた。やがて豊潤な香りがカフェに立ち込め、暖かいコーヒーがマイセンのカップに注がれる。そして、特別にお願いしていたデザートプレートがテーブルに運ばれてきた。ドイツのクリスマス菓子であるシュトレンと特製のティラミスに、フルーツが可愛く品良く盛り付けられている。この頃には、初対面であるはずのお客様同士での会話が

ちこちで見受けられた。こちらがあれこれと準備するまでもなく、すでにお客様自身がイベントを作ってくれているのだ。

このイベントでは、マイセンの歴史やヴェルナー教授のデザインについて、エピソードを交えて解説した。決して上手くはない私の話を真剣に聞いてくださるお客様の様子に、感謝の気持ちが湧き出てくる。質問がでるかと思配していた終盤の質問コーナーでも、たくさんのご発言を頂き、予定していた時間が足りないほどであった。

イベントが終了するころはすっかり暗くなり、美術館で華やいでいるのは私たちのいるカフェだけのようであった。皆様の心のこもった拍手を頂き、イベントは無事終了した。お客様が少しずつ帰られ、最後のおひとりを見送ると、皆ほっとしてお互いの顔を見合わせた。

スタッフとあいさつを交わした後、私は停留所で少し遅れているバスを待っていた。冬の凜とした寒さがかえって気持ちよく、澄んだ空気に郡山の夜景が美しく映えている。その時ふと思つた。今頃スタッフたちは使った器を洗い、箱にしまっているのだろう。その作業は貴重な美術品を扱う芸員の所作に違いない。心の中で彼女たちに拍手を送ると、郡山の夜景が一瞬またいたような気がした。

報告

巨匠ハインツ・ヴェルナーの描いた物語 現代マイセンの磁器芸術

2025年11月22日(土)～2026年1月18日(日)

講演会

「響き合う二つの陶磁器の調べ 柿右衛門～マイセン
巨匠ハインツ・ヴェルナーのメルヘンの世界へようこそ」

講師：荒川正明さん(学習院大学教授、本展監修者)

日時：2025年11月23日(日)

場所：多目的スタジオ

ワークショップ

「自分だけのクリスマスプレートをデザインしよう」

日時：2025年12月21日(日)

場所：階段ホール



西田敏行展

愛してるぞ〜い！

令和6年10月、郡山市出身の俳優西田敏行さんが逝去されました。

稀代の名優であり、唯一無二の歌手であり、故郷福島を、郡山を、こよなく愛した西田敏行さん。その愛と軌跡を振り返る展覧会が、郡山市立美術館「名優・西田敏行」、郡山市歴史情報博物館「郡山人・西田敏行」、タワレコード郡山店「西田敏行と音楽」として、9月6日から28日まで3カ所同時に開催されました。それぞれ

のテーマごとに西田さんの数々の功績と魅力を紹介した展示会場に、ファンばかりでなく多くの市民に足を運んでいただきました。

当館では出演映画やドラマなどのスチール写真やプログラム、掲載雑誌などを展示。西田さんの若かりし日の姿や、さまざまな役を演じる人間味あふれる表情に、若い世代も見入っていました。

また特別イベントとしてスペシャルトーク「ボくらにとつての西田敏行さん」と大合唱「みんなで歌う『もしもピアノが弾けたなら』」、名作映画鑑賞会を開催。そのほか、展示会場を巡るスタンプリーも好評でした。

幅広く活躍された西田さんのご冥福をお祈りいたします。



●スペシャルトーク
ボくらにとつての西田敏行さん

宮藤官九郎さん（脚本家）
×
箭内道彦さん（クリエイティブディレクター）



日時：9月13日（土） 13:00～15:00 場所：石庭

●大合唱 みんなで歌う
「もしもピアノが弾けたなら」

小原田小・中学校合唱部



郡山市名誉市民

西田敏行展 愛してるぞ〜い！

2025年9月6日（土）～28日（日）

●名作映画上映会「学校」
（1993年 松竹株式会社、日本テレビ放送網株式会社、住友商事株式会社）

日時：9月7日（日） 14:00
場所：多目的スタジオ

●名作映画上映会「虹をつかむ男」
（1996年 松竹株式会社）

日時：9月27日（土） 18:00
場所：多目的スタジオ

MLA
連携事業

Museum（博物館・美術館）、Library（図書館）、Archives（公文書館）の頭文字をとって「MLA」と称します。郡山市では、歴史情報博物館、美術館、中央図書館、中央公民館等の社会教育施設が連携しながら、さまざまな文化芸術活動や読書活動の取り組みを行っています。

●「ブック・ナイト・マーケット」

2025年11月15日（土）
場所：郡山市公会堂前広場

●「MLA COMMONS LOUNGE vol.1 ～食とコモンズ～」

2025年11月24日（月・祝）
場所：郡山市中央公民館

●「令和7年度 リサイクルブックフェア」

2025年11月30日（日）
場所：郡山市中央図書館



Report

企画展「皇室を彩る美の世界 福島ゆかりの品々」関連

会期：2025年7月5日（土）～8月31日（日）

講演会「皇居三の丸尚蔵館

収蔵品にみる皇室と福島」

2025年7月5日（土）

場所：多目的スタジオ

講師：田中純一郎さん（皇居三の丸尚蔵館）



美術講座「山本芳翠と磐梯山の噴火」

2025年7月19日（土）

場所：多目的スタジオ

講師：佐藤公さん（磐梯山噴火記念館）、
当館学芸員



「東儀秀樹コンサート

～伝統を紡ぎ新たな地平を開く～」

2025年7月6日（日）

場所：階段ホール

出演：東儀秀樹さん（雅楽師）

東儀典親さん（笙、ギター、ピアノ）

世界を舞台に活躍している雅楽師の東儀秀樹氏と東儀典親氏によるコンサートを開催しました。筆葉などの雅楽器の歴史や特徴についてのレクチャーを交えながら、オリジナル曲からロックまで、幅広いジャンルの楽曲による圧巻のステージとなりました。

企画展「新・山本二三展」関連

会期：2025年9月13日（土）～11月9日（日）

講演会「山本二三 絵にかけた人生と情熱」

2025年9月14日（日）

場所：多目的スタジオ

講師：山本鷹生さん
（絵映舎プロデューサー、
山本二三美術館副館長）



講演会「記憶色の背景 山本二三の美術」

2025年10月26日（日）

場所：多目的スタジオ

講師：久慈達也さん（本展監修者、
DESIGN MUSEUM LAB 代表、
京都芸術大学准教授）



ワークショップ「自分だけの空の色を作ろう」

2025年10月19日（日）

場所：階段ホール

講師：石田司さん
（イーラクリエイティブデザイン）、
こどもバウハウス



公開講座

「国立印刷局工芸官による

凹版彫刻実演・特別講義」

2025年7月26日（土）

場所：多目的スタジオ

講師：国立印刷局工芸官



ワークショップ

「動いて撮ると楽しいよ」

2025年8月17日（日）

場所：階段ホールほか

講師：平間至さん（写真家）、
佐藤正子さん（写真展企画制作）



ワークショップ

「ツゲに刻むー木口木版画講座」

2025年8月24日（土）、30日（土）、
31日（日）、9月7日（日）

場所：創作スタジオ

講師：野口和洋さん（版画家）



ワークショップ「本をつくる」

2025年11月1日（土）

場所：創作スタジオ

講師：植村愛音さん
（古本と手製本ヨンネ）



「第17回風土記の空 ～郡山市内の中学校美術部による作品展～」

会期：2025年11月18日（火）～12月27日（土）

場所：美術館ギャラリー

参加校：行健中学校、明健中学校、安積第二中学校、
郡山第二中学校、郡山第七中学校、緑ヶ丘中学校、
富田中学校、小原田中学校



萩生天泉《汝月明也》
1932（昭和7）年
絹本着色

令和6年度もみなさまのご協力により、新たに作品を収蔵することができました。萩生天泉と酒井三良という本県出身の日本画家の作品を購入いたしましたので、今年度最後の常設展示でお披露目いたします。また、酒井三良と木村莊八、玉村方久斗と小野竹喬のご寄贈のほか、作家関係者から黒沼令三木宗策作品、近代版画コレクション2件のご寄贈がありました。

近代版画コレクションからは第1期、没後80年を迎えた三木宗策作品は第3期の常設で展示公開いたしました。

令和6年

新収蔵作品

第59回子ども美術展

郡山市内の小学生の作品を一堂に展示し、優れた作品を奨励します。

会期：2026年1月31日（土）～2月8日（日）

会場：美術館ロビー、他

主催：郡山市小学校造形教育研究会

共催：郡山市教育委員会 協力：郡山市立美術館

コレクショントークやってます！

4室ある常設展示室では5つのコーナーに分けて、担当者がテーマの設定、作品のセレクト、展示プラン作成をおこなっています。令和6年度最後の展示から、担当学芸員によるコレクショントークを開催。今年度第3期の「山本二三が敬愛した画家一大下藤次郎と『みづゑ』」と題した展示のトークには、企画展観覧後に大勢のご参加をいただきました。

今後も3カ月の展示替え毎にコレクショントークを開催しますので、ぜひご参加ください。（開催の期日は当館ホームページでお知らせしています。）



常設展示のご案内

2026年1月31日(土)から

- 1 都市の^{フラマール}散歩者
- 2 近現代の日本画
- 3 尖る美術 シッカートとその時代
- 4 版画のなかの子どもたち
ガラスの造形

第2回

風土記の丘から

日本大学工学部建築学科卒業設計作品展

会期：2026年2月10日（火）～23日（月・祝）

主催：日本大学工学部建築学科・郡山市立美術館

場所：美術館ギャラリー



前年度開催のようす

トークイベント「建築と美術（仮）」

日時：2月21日（土）13：00～15：00

講師：佐藤慎也氏（日本大学理工学部建築学科教授）

浦部智義氏（日本大学工学部建築学科教授）

阿部直人氏（JIA福島地域会会員）

永山多貴子（郡山市立美術館館長）

プレゼンテーション・審査会

日時：2月11日（水・祝）10：00～16：30

審査：（公社）日本建築家協会福島地域会

同時開催 「巡回ふくしま建築探訪展」

主催：郡山市立美術館、福島県（建築住宅課）

会期：2026年2月10日（火）～23日（月・祝）

会場：美術館階段ホール

県内の魅力的な近現代建築を画文家の宮沢洋さんの親しみやすいイラストと解説文でご紹介します。

TOPICS



営業時間／11:00-17:00
電話／024-942-2250

ランチメニューのご案内

●週替わりワンプレートごはん 1300円^(税込)

ランチタイムにおススメなワンプレートごはん。
新鮮なお野菜をたっぷりしゅうし、お肉や魚介の面印のおかずやカレーなどの煮込み料理などメニュー内容は毎週替わります。

●季節限定パスタ ミニサラダ付き 1390円^(税込)

旬の食材を使用したパスタは不定期で内容が替わります。

☆ランチタイムサービス

15：00 までにお食事をご注文のお客様に限り、お飲み物がセットになります。
（コーヒー・紅茶・ウーロン茶）

臨時休業や営業時間短縮の日もございます。あしからずご了承くださいませ。
みなさまのご来店をお待ちしております！

